

# 牛久：学校周辺に見る自然

第56号

牛久二小

2021年2月3日発行

## < 冬の生きもの観察 ～③植物 >

牛久二小4年生との、冬の生きもの観察。今回は、植物です。



ちょっと前までたくさんの実をつけていたトウネズミモチに、ほとんど実が残っていませんでした。食べたのは、だれですか？ 「生きもの冬越し」を学習した皆さんなら、もうわかりますね？おそらく、食べたのはヒヨドリなどの鳥でしょう。そして、別の木にとまってフンを落とすことでタネをまき、なかまを増やしていきます。他にも同様の植物が見られました。

ほとんど、実が食べつくされたトウネズミモチ。



鳥が食べて、別の場所でフンとして出し、なかまを増やす、上左からマンリョウ、ナンテン、トキリマメ。下左からアオキ、ヘクソカズラ。右下はひろい集めたタネ。いったい、何のタネだろう？

マンリョウやナンテンが、フェンス下で赤い実をつけていました。たぶん鳥がフェンスにとまり、フンとしてタネを落としたのでしょう。その他トキリマメ、アオキ、ヘクソカズラなども鳥が食べてタネを運びます。いろいろなタネをひろい集めた子もいました。何のタネか、育ててみませんか？



あたたかそうな毛皮のようなものに包まれた、大きなハクモクレンの冬芽。中には花の赤ちゃんが入っていて、その下の方に付いている小さな冬芽には、葉や茎の赤ちゃんが入っている。

植物は種子でも冬を越し、なかまを増やしますが、樹木は冬芽でも冬を越します。枝の先や葉のつけ根にできますが、いつごろ作られると思いますか？ 観察して調べてみましょう。意外と早いですよ。冬芽にはハクモクレンのように毛皮でおおわれたものや、たくさんの小さなうろこのようなもので包まれたものなど、いろいろなタイプがありますから、これも観察してみましょう。ハクモクレンには長い毛でおおわれた大きな冬芽と、短い毛が生えた小さな冬芽がありますが、大きな冬芽には花の赤ちゃんが、小さな冬芽には葉や茎の赤ちゃんが入っています。ビニールテープなどで目印をつけて、花が咲き、葉や茎がのびて、実ができ葉が落ちるまで一年間、観察してみるとよいでしょう。



タンポポのように、地面に葉を広げて冬を越す草もあります。バラの花のように見えロゼットとよばれますが、天気の良い日にまねをしてグラウンドの芝生の上に手足を広げて寝ころぶとても暖かいですよ。その他ホトケノザの花や、ノキシノブという孢子(中学で学習)で増える植物が桜の幹に見られました。【理科支援員：宮内】  
地面に葉を広げて冬を越すタンポポ(上)。陽射しがあると、冬でも花を咲かせるホトケノザ(左下)と、孢子でなかまを増やすノキシノブ(右下)。

